

科学研究費助成事業（基盤研究（S））公表用資料  
〔平成29年度研究進捗評価用〕

平成26年度採択分  
平成29年3月21日現在

グローバル社会変動下のリスクと暮らし：

先端ミクロ計量経済学を用いた実証・政策研究

Risk and Well-Being Under Changing Global Society:

Empirical Policy Research Based on Advanced Micro-Econometrics

課題番号：26220502

澤田 康幸（SAWADA YASUYUKI）

東京大学・大学院経済学研究科・教授



研究の概要 先進国の超高齢化による「人口オーナス」の問題が急速に顕在化する一方、「人口ボーナス」を享受する発展途上国が次々と先進国経済にキャッチアップするというグローバル社会の変動を、「高齢化リスク」「災害リスク」「貧困リスク」の3大側面から、フィールド調査・フィールド実験などの情報・データを駆使して解析する。そして、リスクと人々の暮らしの関係についてのエビデンス（科学的証拠）を蓄積することを目指している。

研究分野：社会科学

キーワード：経済発展論

1. 研究開始当初の背景

現代のグローバル社会は、先進国の超高齢化による「人口オーナス」の問題が急速に顕在化する一方、「人口ボーナス」を享受する発展途上国が次々と先進国経済にキャッチアップすることで、大きく変動している。本研究では、こうしたグローバル社会の変動を、高齢化リスク・災害リスク・貧困リスクの三大リスクの視点から分析する。

2. 研究の目的

本研究は、日本と途上国における人々の行動を緻密に把握するための質の高いマイクロデータの収集と先端的な計量経済学を用いた政策分析とを統合することで、(1) 人々の安定的な生活・暮らしを基準として人口高齢化先進国である日本の社会保障政策の在り方を国際比較から検証すること、(2) 防災先進国である日本と発展途上国における災害被災後の生活再建の経験を学術研究に基づいたエビデンスとして蓄積し国際公共財とすること、(3) 人口ボーナスを享受する発展途上国と人口オーナスに直面する中心国・先進国における貧困化リスクと暮らしの関係についての新たなエビデンスを蓄積すること、である。

3. 研究の方法

第一には、高齢者の置かれている生活実態を世界標準で把握するために設計された日本のパネル調査である「暮らしと健康の調査（Japanese Study on Aging and

Retirement, JSTAR）」と連携し、韓国

（KLoSA）、中国（CHARLS）など他国のパネルデータ分析との国際比較を行う「高齢化リスク国際比較研究」である。第二には、日本とフィリピン・中国・ネパールなど諸外国での自然災害・人的災害の被災者の生活維持を対象とした研究を推進する。

第三には、バングラデシュやフィリピン、インド、中国、韓国、ラオスなど途上国や韓国・日本など中進国・先進国における若年層等を対象としたリスクと貧困に関するフィールド調査・フィールド実験を実施し、人口ボーナスの渦中にある若年層が直面するリスクの問題についての新たなエビデンスを蓄積する。

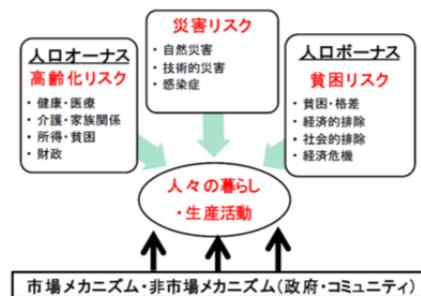


図1 本研究の概念図

4. これまでの成果

第一の研究である「高齢化リスク研究」において、当プロジェクトは、世界標準の中老年対象パネル調査である「暮らしと健康の調

査 (JSTAR)」のデータ収集を支援し、経済、健康、就業、家族、社会参加といった生活の諸側面の国際比較可能なデータ収集を行う学際的国際プロジェクトとして大きな学術的インパクトを生み出した。成果の一部は *Japanese Economic Review* の特集号 (2016年6月号) として出版された。さらに、さらに日中韓の高齢化比較では、Hidehiko Ichimura, Xiaoyan Lei, Chulhee Lee, Jinkook Lee, Albert Park, and Yasuyuki Sawada (2017) “Wellbeing of the Elderly in East Asia: China, Korea, and Japan” というタイトルのディスカッションペーパーとして近刊の予定である。

第二の研究においては、日本と諸外国での日本と諸外国での自然災害・人的災害への被災調査の拡張と既存データを解析する研究を行った。得られた知見として重要なものとして、第一に自然災害への被災が個人の嗜好・向社会的行動・社会心理状況を変化させること、特に双曲割引の傾向 (現在バイアス) を強め、人々の行動を歪めることがわかった。成果の一部は *World Development* 誌の特集号 Special Issue “Natural Disaster, Poverty, and Development,” として掲載された。

第三の研究では、フィリピン・スラム地域におけるライフスキル構築研究と都市周辺地域における長期貧困ダイナミクスについての研究、バングラデシュにおける認知能力・非認知能力改善のための介入研究と女性のエンパワーメント介入研究、インドにおける胎児期起源仮説の検証とベンチャー企業・伝統零細における企業家精神の介入研究、中国における基礎教育の質改善のための介入実験研究、日本における在日韓国・朝鮮人大学生と日本人大学生における向社会的行動についての実験研究、韓国における孤児院における向社会的行動の研究などを実施し、マイクロデータの収集と解析を推進した。成果の一部については、*Asian Society of Agricultural Economists (ASAE)* の研究大会の企画セッションで報告された。

これらの研究では、特にフィールド実験など経済学において近年の進歩が著しい「マイクロ実証研究」の手法を軸として経済学と社会心理学・公衆衛生学・疫学をつなぎ、さらには自治体の政策と連携したエビデンスに基づく官学連携の政策を有効に進める先進的な試みを行っている。

## 5. 今後の計画

第一の研究である「高齢化リスク研究」において、JSTAR から得られるパネルデータの先端的なマイクロ計量経済学に基づいた解析結果を韓国 (KLoSA)・中国 (CHARLS) のみならずインド (LASI) など他国のパネルデータ分析との国際比較をさらに推進する

ことで、人々の安定的な生活・くらしを基準に人口高齢化先進国である日本の社会保障政策の在り方をさらに検証を進める。

第二の研究では、行政と学際的な研究者グループとの有機的な連携をさらに強化することで、岩沼市、福島県双葉町、大船渡市、フィリピン・ラグナ州・オルモック市、ネパール・カトマンズにおける復興研究をさらに進める。

第三の研究では、バングラデシュやフィリピン、インド、中国、韓国、ラオスなどいくつかの途上国や韓国・日本など中進国・先進国における若年層等を対象としたリスクと貧困に関するフィールド調査・フィールド実験データの解析を進め、人口ボーナス・人口オーナスの渦中にある若年層が直面するリスクと暮らしの関係についての新たなエビデンスをさらに蓄積する。さらには個々の研究プロジェクトの成果を発表することで、学術的な成果にとどまらない、開発政策へのインパクトも発現出来るよう広く発表の機会を探る予定である。

## 6. これまでの発表論文等 (受賞等も含む)

- Yoko Sakai, Jonna P. Estudillo, Nobuhiko Fuwa, Yuki Higuchi, and Yasuyuki Sawada (2017) "Do Natural Disasters Affect the Poor Disproportionately? Price Changes and Welfare Impact in the Aftermath of Typhoon Milenyo in the Rural Philippines." *World Development* (採択済み、近刊).
- Hidehiko Ichimura, Yasuyuki Sawada,\* and Satoshi Shimizutani (2016) "Conference on Economics of Aging in Japan and Other Societies: Introduction," *Japanese Economic Review* 67(2), Pages 145–229.
- Daniel Aldrich and Yasuyuki Sawada (2015) "The Physical and Social Determinants of Mortality in the 3.11 Tsunami," *Social Science & Medicine* 124, 66-75.
- William duPont IV, Ilan Noy, Yoko Okuyama, and Yasuyuki Sawada, (2015), "The Long-Run Socio-Economic Consequences of a Large Disaster: The 1995 Earthquake in Kobe," *PLOS ONE*.

ホームページ等

<https://sites.google.com/site/yasuyukisawadapage/home>